みんなで

のりこえよう通信

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　校長室から

令和　2　年　11月　27日　　NO.22

紅葉

新聞の夕刊などに「紅葉の見ごろ」として、もみじを色分けしている図を眺めるのが好きです。京都なら「永観堂の見ごろは」「嵐山は」、奈良なら「談山神社は、いまどんな感じ」とか「奈良公園は」と、かつて見たことのある紅葉を思い出して悦に入るのです。

でも、今年は行けそうにありません。

そう言えば、今年の桜の時期も蟄居していました。

まだまだ、我慢の時間かも知れません。

少し、来年の紅葉でも想像しますか。

感染が拡大する前、少し落ち着いた頃に、生駒山に行ってきました。

およそ50年ぶりの訪問。

実は、春の蟄居中に映画「男はつらいよ」(柴又帝釈天のお団子屋が舞台。寅さんが主人公の昭和の映画)を第1作から、昨年公開された50作まで見てやろうと決心したのでした。

その第27作目「浪速の恋の寅次郎」を見ているときに、「あっ」となったのです。宝山寺というお寺で寅さんとマドンナが話をしているシ－ンを見て、大昔、今は亡き明治生まれの祖母とそのお寺行った記憶が鮮明によみがえってきたのです。

映画を見ながら「感染がおさまれば、再訪せねばならない」と思い、秋の最初のころに伺ったのでした。

訪問の理由は、もう一つあって、近鉄奈良線に乗って奈良を目指すと石切駅を過ぎたころから、列車は生駒山を登り始めます。どんどん高度が上がる。

窓の外には、小さくなっていく大阪平野の風景が広がります。ハルカスはよく見えるので、それを基準にするといろんな建物の場所がわかったりして楽しいです。しかし、列車は止まってくれません。景色は流れていきます。

「いつかゆっくりとこの景色を見たい、また生駒山から見下ろす奈良盆地の夜景も見たいな」と考えていたのでした。(つづく)